

腫瘍の2

1. 肺がん

組織分類：

小細胞癌

非小細胞癌

腺癌

扁平上皮癌

組織発生頻度：

腺癌>扁平上皮癌>大細胞癌、小細胞癌

1) 小細胞癌

形態：細胞質が乏しい小型の細胞、びまん性増殖

発生部位：肺中枢側発生

浸潤転移頻度：遠隔転移、リンパ転移が高い

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：高い

予後：非常に悪い

2) 扁平上皮がん

形態：がん細胞が敷石状の塊（胞巣）をつくって、

胞巣の中心では角化（かくか）した細胞がある

発生部位：肺中枢側発生（気管支）>末梢側発生

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移が低い

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

予後：5年生存率15－40%

3) 腺がん

形態：がん細胞が不規則な腺腔をつくって増殖する

発生部位：末梢側発生

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移が起こしやすい

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

予後：5年生存率10－30%

4) 大細胞がん

形態：扁平上皮がんへの分化も腺がんへの分化も示

さない型で、特定の配列を示さず増殖する

発生部位：中間くらい

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移が起こしやすい

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

予後：5年生存率5－20%

2. 食道がん

形態：90%以上が扁平上皮癌

発生部位：中部最も多い50%、次いで下部食道20%

浸潤転移：周囲組織の直接浸潤が多い、リンパ転移も多い、癌組織が壊死になり食道穿孔し、周囲の縦隔に化膿性炎症が起こる

3. 胃がん

形態：腺がん

発生部位：幽門部小弯が多い

早期胃がん：粘膜または粘膜下層までにとどまる

肉眼分類：I 隆起型、II 表面型（IIa 表面隆起型, IIb 表面平坦型, IIc 表面陥凹型）、
III 陥凹型

進行胃がん：がん細胞が固有筋層より深い浸潤する

肉眼分類（ボルマン分類）：1 型（隆起型）、2 型（潰瘍形成型）、3 型（潰瘍浸潤型）、4 型（びまん浸潤型）

4. 大腸がん

形態：腺がん

発生部位：最も発生頻度の高い部位は直腸で、次いでS状結腸、上行結腸の順である

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移、腹膜播種

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

5. 肝がん

形態：1) 肝細胞がん、2) 肝内胆管がん

B型肝炎、C型肝炎→慢性肝炎→肝硬変→肝癌

血液検査上以下の蛋白質が上昇する：

アルファフェトプロテイン AFP

ピブカーター PIVKA-II

6. 乳がん

形態：腺がん

非浸潤がん：がん細胞が乳管の中にとどまる

浸潤がん：間質に浸潤する

小葉がん

乳管がん

組織学的には浸潤性乳管がん 80%

特殊型：乳房パジェット病 (Peget's disease)

乳腺内に腫瘍をつくらず、乳頭部びらんのみを特徴とし、がん細胞が表皮内を拡大して増殖する。パジェット病は臨床的に炎症と鑑別診断が必要な疾患である

7. 脳腫瘍

分類

原発性脳腫瘍

成人の脳腫瘍は大腦に好発する

児童では小脳や脳幹に好発する

原発性脳腫瘍が脳から他臓器に転移することは少ない

転移性脳腫瘍

肺がんや乳がん等の脳転移

原発性脳腫瘍分類

1)、神経上皮性腫瘍

神経細胞から発生する腫瘍は少ない

神経膠細胞から発生する腫瘍は多い：グリオーマ（神経膠腫）と総称する

下記の①～④、脳腫瘍の約半数

復習：

神経組織組成： 神経細胞と神経膠（グリア）＊

＊ 神経細胞の支持や栄養供給などを担当する組織（P16）

①星細胞腫（アストロサイトーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

②希突起膠腫（きとつきこうしゅ）（オリゴデンドログリオーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

③上衣腫（エペンディモーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

④膠芽腫（グリオブラストーマ）

（多形膠芽腫、神経膠芽腫、膠芽細胞腫）

悪性度一番高い グリオーマの約半数を占める

⑤髓芽腫（メデュロブラストーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

小児に多く、小脳虫部、第4の脳室にできる

2) 非グリオーマ群

①髄膜腫 ほとんどが良性腫瘍 脳腫瘍の15%、グリオーマ以外ではもっとも多い腫瘍、成人に発生する

②神経鞘腫（しんけいしょうしゅ） 良性腫瘍 内耳神経（聴神経、第8脳神経）から発生することが最も多く

③下垂体腺腫 良性腫瘍 視神経を圧迫する腫瘍である 成長ホルモン産生腺腫は巨人症を起す